



『ハーモニー』

伊藤 計劃／著 早川書房 [一般:F11]

紹介者:塩むすび さん

私の推し本は、病気になると体内のナノマシンが治療してくれる、高度な医療社会を描いたSF作品です。その医療・健康が支配する世界の物語は、主人公の目の前で、友人が自殺するところから動き始めます。世界各地で同時刻に6500名余りが突然自殺したこの事件を調査することになった主人公が見つける数々の真実に、目が離せず一気に読めてしまう内容です。読み始めた時から感じる明らかな違和感も、作品全体の仕掛けとして良い雰囲気作りになっています。

また、作品外の推しポイントになりますが、この「病気で死なない高度な医療に支配された世界」を、死の病と闘いながら著者が描いていたという点。一体どの様な心境でこの作品を書いたのでしょうか？この作品は、星雲賞や日本SF大賞を受賞するも、既に著者は旅立った後。まだまだ生きて他の作品も書いて欲しかったと思わずにはいられない著者による、私のオススメの1冊です。